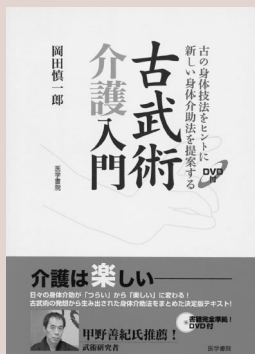


# （介護する側の身体の動きの 合理性を把握する手助けに）



## 古武術介護入門 [DVD 付]

古の身体技法をヒントに新しい身体介助法を提案する

岡田慎一郎 著 B5 判・128 ページ

定価 3,150 円(本体 3,000 円+税 5 %) ISBN978-4-260-00295-0 医学書院 2006

評者

川島みどり

日本赤十字看護大学教授

### 目の当たりにした技法の有用性

2005 年の暮、『週刊医学界新聞』で連載中の「古武術介護入門」を読みながら、いにしへの身体技法とボディメカニクスとの関連をこの目で確かめたいという思いを強くしていた折、自宅の近くでの講習会という好機に恵まれ参加した。武術の心得のない者が、古武術の極意を駆使しての技術を理解できるだろうか、一抹の不安もあったが、どちらかと言えば小柄で華奢な指導者が、倍近くもあるような巨軀を軽々と持ち上げたのを目の当たりにして驚いた。その人こそ本書の著者である岡田慎一郎氏だった。

ちょうどその頃、私は腹部の手術後間もない身で、腹筋をカバーしながらの消極的な実技への参加ではあったが、確かに従来の常識を超えた力の分散を体で感じた。こうして、本を読む前に、古武術介護の入り口に案内された者として、はっきりと言えることは、本書で紹介されている技のそれぞれは、いずれも記述どおりに有用に活用できるということである。

### 技術を技能化してこそ使いこなせる

ただし、活用するまでには一定の道のりが必要である。技術論の立場から考えると、著者が、古武術

の技に潜む身体技法を介護に応用するために言語化した原理こそ、この「古武術介護」の中心をなすものである。すなわち、本書第 2 章で展開されている古武術介護の 6 つの原理がそれである。とはいえ、読んで頷いたからといって、誰でもそう軽々とできるものではない。すべての技の習熟がそうであるように、知識として学んだ技術を滑らかに実践に活かすためには、訓練を重ねて身体に深く覚えこまさせなければ使えるものではない。いわゆる技術の技能化である。

また、未だ著者の身体知(主観的法則性)となっている技も少なくない。それは、「基本はきっかけ」とか、「微妙な角度を感覚でコントロール」と言った表現から読み取れる。したがって、自分でその感じをつかまない限り、目標達成は覚束ないということになる。このことは、エキスパートの技を如何にして、新人や学生に伝えるかという、現在看護が抱えている課題にも共通なので、興味深く読んだ。

文字だけでは理解しにくい動きの実際は、DVD でとらえるのも嬉しい。ただ、自分よりも体重の重い利用者や患者の移動動作の日常を思うと、この術の優位性を語るには、登場するモデルが細身過ぎたのではないだろうか。

「動き」は人間の生活行動の要とも言える。これを支援する側の身体の動きの合理性を把握する意味からも是非一読を勧めたい。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。  
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。